CSアクションプラン メインスローガン 「 未来の子　みんなの絆で　輝く瞳 」

未来を切り開く力をつけ ふるさとを愛し夢や希望に挑戦する更別の子どもを 地域総がかりで育てよう

どんぐり村の こみ・すく通信

令和8年10月13日発行　令和8年度第13号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局（教育委員会）

みんなの学校応援団の活動を紹介〈その7〉
JAさらべつ青年部と一緒に収穫作業

８月３１日（月）、更小５年生が学校応援団であるＪＡさらべつ青年部の皆さんにご支援いただき、学校農園でカボチャの収穫を行いました。５月中旬に児童たちが植えた「ケント」と「アトランチック・ジャイアント」は、今年もたくさんの実をつけました。児童たちは大きなハサミを使って、一つ一つ丁寧に収穫していきました。



「ケント」は１１月に再び、ＪＡさらべつ青年部の皆さんにご協力いただき、カボチャを使った料理を作る予定です。



児童三人でも持ち上げることができない程に育った「アトランチック・ジャイアント」はハロウィンまで児童玄関などに展示されています。





みんなの学校応援団の活動を紹介〈その8〉
消防署員から避難訓練と消火器体験

９月７日（月）、上更別小学校で家庭科室からの出火を想定した避難訓練を行いました。今回の訓練は、児童には事前に訓練があることを知らせずに実施しました。そのため、放送を聞いた後、落ち着いて確実に避難することができるかが重要なポイントでした。訓練では、無事に児童全員が避難することができました。一方、消防署の方からは、一部、話をしている様子が見られたとのご指摘をいただきました。改めて、災害時の避難では「自分の命を守るために、満点の行動をすること」が大切であることを確認しました。避難後には、４年生から６年生が消火器を使った消火訓練を体験しました。練中、小学生にとっては消火器が重たいことがわかり、消火器を地面に置いたままにして消火する訓練をしました。



北方領土問題を忘れない

９月７日（月）、更小５年生が２時間続きで、北方領土問題についての学習しました。講師として来校されたのは、択捉島民３世の語り部の方と北方領土対策課職員２名。はじめに語り部の方から、北方領土の場所や広さについて、更別村との比較を交えながら、わかりやすく説明していただきました。その後、３０年前と現在の択捉島の様子を記録した動画を視聴し、歴史的な経過や問題がなぜ解決しないのかについても教えてくださいました。その中で、語り部の方が強く伝えてくださったのが「小学生の皆さんに今すぐ何かをしてくださいということではないのです。一般の人々の故郷が奪われたということを忘れないでほしい」との言葉でした。対策課職員２名からは、北方領土のことをより深める四択のクイズが出題され、児童たちは一生懸命に考え、答えていました。

